

ふちもに情報局

vol. 35



2010. 8

目次

- 「アクション油ヶ淵 in 高浜」を開催します！
- 活動情報
- 7月のコメント
- 連載④「油ヶ淵周辺のこんな所」
- 油ヶ淵浄化デー
- 葦船学校
- 干潟の観察会



アクション油ヶ淵 in 高浜
を開催します！



活動情報

● 7月のコメント

・ここには鵜が5〜6羽、羽根を休めている。芥が散乱している。前の所より少し水が澄んでいる感じ。

(下池西岸・流入農排
ジャンボタニシのたまごが多い
(準) 切間川

連載④

「油ヶ淵周辺のこんな所」

今回は少し知的にということと美術館へ出かけました。

高浜市のかわら美術館は、全国唯一のかわらをテーマとする美術館ということですが、折々に開催される企画展もずっしりと見応えがあります。現在はTVDドラマ「裸の大将」でも有名な放浪画家「山下清のすべて」が開催中。以前には、「ひめゆり部隊」「魯山人」などの展示会も。中でもお奨めは2年に1回開催される「イタリヤ・ポローニャ国際絵本原画展」。絵本といつて侮れません。

世界各国のお国柄を反映した原画はどれも個性が溢れてカラフルで、見ていて飽きません。あなたのお気に入りの1枚もきっと見つかりますよ。隣接のフランス料理店も評判です。

美術館と名鉄三河線高浜港駅を結び「美しい日本の歩きたくなるみち500選 鬼のみち」もお奨め。焼き物の町らしく道のあちこちに鬼瓦のオブジェが置か

・橋の下にコイがたくさんいた。先日近くの土手にヒガンバナの球根を植えた。
(法響橋)

・長田川本流 カルガモの親子 遊んでいる
(準) 道田川・下流

・流量多い、流速遅い。半場川の水位と同じ、水色は灰緑で油膜及び微細なごみが浮遊している。(準) 新田川

置かれていたり、土管や瓦がセンス良くあしらわれていたりして散歩するのに最適です。道の途中にはポランティアの休憩所も。昭和の風情漂う建物には、太平洋戦争の思い出の品々が飾られていて、ご主人からお茶のおもてなしとともに貴重なお話をうかがうことができます。

まだまだ厳しい暑さが続きますが、冷房の効いた美術館で芸術に触れながらも体もリフレッシュする1日を過ごしてみたいかがでしょうか。
(川村)

浄化デーも無事に終わったね。朝から暑い中、多くの方の協力でたくさんのゴミが回収されたよ。油ヶ淵がきれいになって嬉しいな♪ 勤労青少年水上スポーツセンターでは同時に葦船学校も。葦船が油ヶ淵の湖面を走り回っていたから、ほくも乗りたくなっちゃった。

9月4日(土)には「アクション油ヶ淵 in 高浜」があるよ。アメリカ生まれ、カナダ育ちのジョン・ギャスライトさんの講演や稗田川かるがも会さんと高取小学校のみなさんの発表が楽しみ。

あぶちゃん



日時 9月4日(土)

午後1時30分

(開場午後1時)

場所 高浜市中央公民館

内容 水質浄化に関する取組紹介

講演

ジョン・ギャスライト氏

油ヶ淵浄化に関する展示





碧南市、安城市、西尾市、高浜市の4市では、油ヶ淵の水質浄化を目指し、平成4年から原則7月の第4日曜日を「油ヶ淵浄化デー」と定め、地域住民の参加を得て、油ヶ淵周辺及び流入河川の一斉清掃などの実践活動を行ってきました。

今年も7月25日(日)に実施され、地域住民3,350名が参加し、約1.3トンのゴミを回収しました。梅雨明け後の夏の暑さに負けない、皆さんの油ヶ淵をきれいにしようとする熱い思いを感じさせてくれました。一日でした。



(碧南市)



(安城市)



(西尾市)



(高浜市)

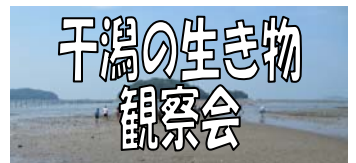


第3回葦船学校が、7月23日(金)～25日(日)にかけて開催されましたので、取材に向いました。ちょうど新しい葦船の名前人気投票最中であつたので、投票に参加。2艘の葦船命名式で応募のあつた名称から見事選ばれたのは・・・、中型葦船が「おおまる」、小型葦船が「ちいまる」です。キュートな名前とても親しみがもてます。

その後、完成したばかりの葦船2艘と、これまでに作製した葦船乗船会。自分たちで作あげた葦船です。皆さんわくわくして順番を待っていました。また、葦船作りの中心となっていた3名に、「葦船職人」の称号が贈られました。今後の活動に期待です！



(池野)



7月26日(月)に幡豆郡幡豆町にある東幡豆海岸で開催された「干潟の生き物観察会」に参加してきました。この「干潟の生き物観察会」は、県が主催するイベントで、「親子で水や生き物に親しむ」ことを目的に開催されました。

この干潟は、左右を海で挟まれた珍しい干潟で、えさとなるプランクトンや海水中の酸素が多く、おいしいアサリが育つらしいです。潮干狩りシーズンは少し過ぎていましたが、干潟を掘ってみるとアサリやバカ貝など、いろいろな貝がごろごろ。シーズンになると一日に5,000人以上が潮干狩りに訪れることもあるよう。

また、今回一番の盛り上がりを見せたのがマテ貝取り。マテ貝は一般的な潮干狩りのように穴を掘るだけでは捕まえることができません。少し穴を掘ると直径1センチくらいの縦に長い穴が開いているのが見つかります。そこに塩を振ると、ピョコッと頭を出すのでそこをすかさずキャッチ！……すると逃げられてしまいます。最初に出てくる部分をつかむと、そこだけ切れてしまいます。ここは焦らず貝の部分が出てくるまで待たなくてはなりません。だから子どもたちには「マテ貝は『待て!』だよ」と(汗)。

さて、このように多くの生き物に恵まれている干潟は水質浄化にとっても重要な役割を果たしています。例えば一つの貝は一日1リットルもの水をきれいにするといわれています。窒素や燐といった汚れも貝などの栄養となり、それを私たちやほかの動物が食べることで、私たちが日常生活も、思いがけないところで水質浄化に貢献しているのですね。

(大橋)



油ヶ淵流域市民モニタリング
ふちもに情報局 vol. 35
平成22年8月発行

発行
 愛知県環境部水地盤環境課
 調整・生活排水グループ
 〒460-8501
 名古屋市中区三の丸三丁目 1-2
 電話052-954-6219(ダイヤルイン)
 Mail:mizu@pref.aichi.lg.jp